

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	佐藤 純也
主論文の題目 および 掲載誌・審査委員名	題目 Efficacy and Safety of Single-Session Endoscopic Stone Removal for Acute Cholangitis Associated with Choledocholithiasis. (総胆管結石による急性総胆管炎に対する一期的内視鏡的結石除去の有用性と安全性) 掲載誌 Canadian Journal of Gastroenterology and Hepatology Volume 2018, Article ID 3145107, 7 pages
	主査 平 泰彦 副査 松田 隆秀 副査 大坪 耕人
<p>[論文の要旨・価値]</p> <p>(背景・目的) 総胆管結石による急性胆管炎の治療は ERCP(Endoscopic retrograde cholangiopancreatography)による胆管ドレナージと結石除去である。重症例は初回は胆管ドレナージにとどめ、二期的に結石除去うことが確立されている。中等、軽症例に対する一期的結石除去の妥当性は確立していないので、その安全性と有用性を検討する。</p> <p>(対象・方法) 聖マリアンナ医大消化器内科で経験した総胆管結石に起因した中等、軽症の急性胆管炎 167 例を対象に後ろ向きに検討。一期的結石除去群（78 例）と初回ドレナージのみの群(89 例)の 2 群間で、安全性は胆管炎改善率と偶発症発生率を、有用性は手技時間、総 ERCP 回数、結石除去率、入院期間を指標として比較した。</p> <p>(結果) 一期的結石除去群はドレナージのみの群と比較して、患者背景として若年、結石は少数で小結石。抗血栓薬非使用者が多くいた。安全性因子の胆管炎改善率は両群とも 100%、偶発症発生率は一期的結石除去群 11.5%、ドレナージ群 10.1% で両群に差はなし。有用性は一期的結石除去群で手技時間が長いが、入院期間は 11.9 vs. 19.9 日と有意に短かった。</p> <p>(結論) 本研究は後向き研究で治療法決定に際しての選択バイアスという制約はあるが、総胆管石による急性胆管炎の中等と軽症例では、一期的結石除去術は安全に実施され、入院期間の短縮という有用性を示し得た。</p> <p>本論文は、結石に起因する急性胆管炎の中等と軽症例において、内視鏡的一期的結石除去術の安全性と有用性を示した。臨床的に価値のある研究であり、結果であると判断した。</p>	
<p>[審査概要] 2018 年 12 月 11 日、松田教授、大坪教授、そして平により審査を行った。PPT によるプレゼンが行われた。その後、胆管炎の重症度分類、胆管炎の改善率、治療法の選択バイアスについてなど種々の質問や議論がなされた。佐藤医師はこれらに解りやすく答えた。後ろ向き研究ゆえの治療法選択バイアスに対しては、今後ランダム化比較試験の必要性を強調し、その意欲も語った。英語はテーマと関連する英語論文を和訳してもらうことにより評価した。</p>	
最終試験結果の要旨	
<p>[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]</p> <p>テーマの設定、研究計画を指導者と相談しつつ、データ集積と解析は自ら行った。本研究の limitation である治療の選択バイアスについても充分に理解し、今後の研究計画についても深く考えている。関連する医学知識も満足するものであった。英語力も十分と判断。発表態度、応答から真摯な人柄であることが理解でき、学位授与に値すると判断した。</p>	